18 714
山陰中央新報

北東アジア研（島根県立大）を採択

文科省の「魅力ある大学院教育」支援事業

地方ミニ大学の実践と挑戦評価

公立で全国2件

文部科学省が優れた大学院教育を選び、重点的に財政支援する本年度の「魅力ある大学院教育イニシアチブ」事業に、島根県立大学（浜田市野原町）の北東アジア研究科北東アジア専攻の「実践的北東アジア研究者の養成プログラム」が採択された。全国の公立大学で、採択は二件しかなく、人文・社会系では、事業開始以降、初めてとなる。

同事業は、創造性豊かな若手研究者の養成機能を強化するため、二〇〇五年度に創設された。採択されれば、二年間にわたり、年間五千万円を上限に補助が受けられる。

本年度は人社、理工農、医療の三分野で、全国百二十九大学が二百六十八件のプロジェクトを申請。書面、ヒアリング審査を経て、三十五大学の四十六件が採択された。

島根県立大のプロジェクトは、北東アジア研究科と、同大の北東アジア地域研究センターが密接に連携することで、実践的で、幅広い思考力、問題解決能力の人材育成を図ろうと、計画した。

大学院生に対し、同センターが国際シンポジウムや研究会へ積極的に参加させるとともに、言語研修の場や海外留学の機会の提供、海外調査や研究活動を助成・支援するための准研究員としての採用などを盛り込んだ。

松江、浜田で開く専門的な公開講座・NEARカレッジの修了者らを対象にした「市民研究員制度」を設け、同センター研究員や大学院生と共同研究する構想も掲げた。

審査では、地方の小規模大学というハンディをプラスに転じた発想に加え、国、地域という枠組みを超えた「超域」の研究姿勢、社会貢献性が「教育モデルになり得る」との高い評価を受けた。

同研究科長を務める宇野重昭学長は「大学の活性化につながり、喜ばしい。と同時に、責任を感じる。計画が100％以上、完成できるよう推進したい」と話した。